

「考え、議論する道徳」の実現に向けた授業構想〈中・道徳〉

特別研修員 道徳 山添 貴敏 (中学校教諭)

主題名 自らの目指す理想の実現に向けて

内容項目 A-(5) 真理の探究、創造

教材名 『新しい日本文学をめざして ～田山花袋～』 (道徳郷土資料集『ぐんまの道徳』) 第1学年

ねらい 花袋の生き方について考え、話し合うことを通して、諦めずに理想の実現を目指し、自己の人生を切り拓いていこうとする態度を育てる。

地域の人材や物的な資源を活用した授業構想

ねらいとする道徳的価値に迫るために、真実や真理を探究して社会の発展に貢献した先人を用いた教材を取り上げ、生徒に興味や関心をもたせることは、生徒の主体的な学びを促進し、自分との関わりの中で道徳的価値を深めるために効果的であると考えます。そこで、道徳郷土資料集『ぐんまの道徳』を活用し、生徒に馴染みのある群馬県の先人を取り上げます。ここでは、上毛かるたに登場する「田山花袋」を取り上げ、田山花袋が大成するまでの人生をたどる中で、花袋と自分を重ね合わせ、考えさせるようにします。そして、諦めない心を持ち、他人の助言を聞き、自己の理想の実現を目指し、自己の人生を切り拓いていこうとする思いや願いを深めることができるように授業を構想します。

過程

主な学習活動 (○発問 ◎中心発問 ◇補助発問)

- 1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。
○アンケートの結果から考えよう。

アンケート

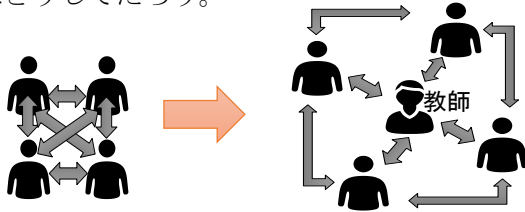
日々の生活の中で、やっても無駄・無理と思ったことがある。

- 〈ある〉と答えた人は、どうしてそう思うのですか。
- 〈ない〉と答えた人は、どうしてそう思わないのですか。

めあて：自分の未来を創るためには、あなたはもうどうしたらよいのだろう。

- 2 教材文の範読を聞く。

- 3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。
 - どうして花袋にとって夢がふくらむ再上京なのだろう。
 - 再度挫折した花袋はどんな気持ちでいるだろう。
 - なぜ、花袋は独歩とお互いの作風や生き方について話し合ったのだろう。
- ◎「蒲団」が認められるまでの10年間、花袋が頑張ることができたのはどうしてだろう。



- ◇もし今のあなたなら、花袋のように作品づくりを続けられますか。

- 4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。

- 自分の未来を創るためには、どんなことが必要だろう。

- 5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

- これからあなたはどのように生活していきたいですか。

【振り返り】の一例

- ・一生懸命諦めずいろいろなことに挑戦していきたい。
- ・他人の意見を取り入れて、自分の生活に生かしていきたい。
- ・自分のやりたいことをやり続けたい。

主体的な学習

アンケート：問題意識をもつ

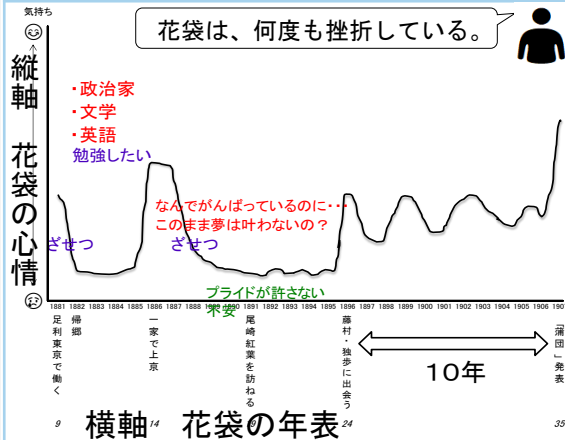
私たちは、簡単に努力を諦めている。

『ぐんまの道徳』の活用

主体的な学習を促進

上毛かるたに出てくる田山花袋だ。館林市の出身なんだ。

心情グラフの活用：挫折を繰り返す花袋の気持ちを共有



道徳的価値の追求を行うために

- ・中心発問後に、交流や比較・検討の場面を設定する。

自分との関わりで深める

私が花袋なら、きっと諦めてしまうけれど、花袋のように好きなことであれば続けることはできる。

道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返るために

- ・本時で学習したことを今後どのように生活していきたいか考えさせ、よりよい生き方への思いや願いが深められるようにする。

道徳的実践意欲と態度

展開

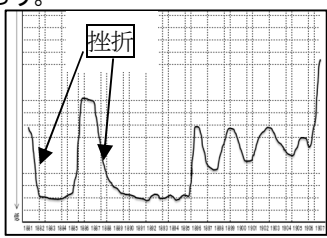
終末

指導例：主題名 自らの目指す理想の実現に向けて 内容項目 A-(5) 真理の探究、創造
 教材名 『新しい日本文学をめざして ～田山花袋～』（ぐんまの道徳）第1学年

ねらい：花袋の生き方について考え、話し合うことを通して、諦めずに理想の実現を目指し、自己の人生を切り拓いていこうとする態度を育てる。

主な学習活動（○発問 ◎中心発問 ◇補助発問）

- 1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。**
 ○アンケート「日々の生活の中で、やっても無駄・無理と思ったことがある」の結果から考えよう。
 T：「ある」と答えた人はどうしてそう思ったのか。「ない」と答えた人はどうしてそう思わないのか理由を書いてみましょう。
 S：今までやってきたけど、結果がでなかったから。
 S：やって無駄なんてことはないし、結果がでたから。
 T：でも、その結果に満足ですか。
 S：満足していると言えば満足だが、してないと言えば満足ではない。
 めあて：自分の未来を創るためには、あなたははどうしたらよいのだろう。
- 2 教材文の範読を聞く。**
- 3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。**
 ○どうして花袋にとって夢がふくらむ再上京なのだろう。
 S：自分がやりたいことができると思ったから
 S：自分の夢を叶えることができると思ったから。
 ○再度挫折した花袋はどんな気持ちでいるだろう。
 S：なんで、僕はこんなについてないのだろう。
 S：やりたいことをできないのは悔しい。
 T：この後、紅葉に弟子入りしたけど、花袋はどんな気持ちかな。
 S：年齢も近いし、プライドが許さない。
 S：悔しい気持ちもあったと思う。
 ○なぜ、花袋は独歩とお互いの作風や生き方について話し合ったのだろう。
 S：自分の作品づくりに生かしたいと思ったから。
 S：売れるためにアドバイスを受けたいから。
 T：自分の作品づくりに口を出されて、素直に聞き入れることができる。
 S：売りたい気持ちが強いし、アドバイスを受けた方がよりよい作品になると思ったから。
 ◎「蒲団」が認められるまでの10年間、花袋が頑張ることができたのはどうしてだろう。
 S：自分の好きな文学を諦めたくない。自分には、文学しかない。
 S：作家として生きていこうと決めたから。夢を諦めたくない。
 ◇もし今のあなたなら、花袋のように作品づくりを続けられますか。
 S：今の私なら、作品づくりをやめてしまいそう。
 S：好きなことや得意なことであれば続けられそう。
- 4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。**
 ○自分の未来を創るためには、どんなことが必要だろう。
 S：諦めない強い気持ちが必要だと思う。
 S：他の人の意見を聞くことが大切だと思う。
 S：常に学び続ける姿勢が大切だと思う。
- 5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。**
 ○これからあなたはどのように生活していきたいですか。
 S：他の人の意見を取り入れて自分の生活に生かしていきたい。
 S：一生懸命諦めずいろいろなことに挑戦していきたい。
 S：自分のやりたいことをやり続けたい。



指導のポイント

【問題意識をもつ】

- ・生徒たちが回答したアンケート結果を提示し、簡単に努力を諦めてしまう自分について考えさせることで、本時で扱う道徳的価値について問題意識をもたせる。

【『ぐんまの道徳』の活用】

- ・ねらいとする道徳的価値に迫るために、真実や真理を探究して社会の発展に貢献した先人を用いた教材を用いる。ここでは、生徒たちに馴染みのある群馬県の先人「田山花袋」を用いることで、生徒たちに興味や関心をもたせ、主体的に学ばせる。

【心情グラフの活用】

- ・心情グラフで花袋の気持ちの変化を可視化し、挫折を繰り返す花袋の気持ちを共有する。

【中心発問について】

- ・独歩と出会ってから10年、作品づくりをやめなかった花袋について考えさせ、諦めない強い気持ちが必要であることに気付かせる。
- ・周囲の生徒との交流の場を設け、自分の考えを明確にすることで、全体で発言しやすい雰囲気をつくる。
- ・全体の交流の場面では、他の生徒にも「どう思うか」、「付け加えはないか」と問い掛けることで、多面的・多角的に考えられるようにする。

【補助発問について】

- ・花袋と生徒たちを重ね合わせる補助発問をし、自分事として考えられるようにする。

【振り返り】

- ・本時で学習したことを今後の生活にどのように生かしたいかを考えさせ、よりよい生き方への思いや願いを深められるようにする。

道徳科学習指導案

令和元年10月 第1学年 指導者 山添 貴敏

- 1 主題名 自らの目指す理想の実現に向けて 内容項目A-(5)真理の探究、創造
- 2 教材名 「新しい日本文学をめざして ～田山花袋～」(出典:道徳郷土資料集『ぐんまの道徳』)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

人間としての生き方を求め、自己の人生を切り拓いていくためには、物事の真の意味を知ることが求められる。「真実」とは、うそや偽りのない本当の姿のことである。「真理」とは、全ての人が普遍的で妥当性のある法則や事実、正しい在り方などのことである。また、「創造」とは、新しいものを生み出すことである。創造は、模倣によってではなく、独自の考えに基づいて、物事を作り出すこととする強い気持ちがなければできない。新しいものを生み出すためには、まず解の有無を模索する必要がある。そして、解が有る場合には、解が複数あり得たり、一つの解への道筋がいくつもあり得たりと諦めず考え続けることも必要である。時には、新しいものを生み出すために、自分の得意な領域を定め、必ずやり遂げるといふ強い気持ちを持ち続けることも必要である。そこで、自己の人生を切り拓いていくために、自分の得意な領域を定め、諦めずに必ずやり遂げるといった積極的な態度を育てたい。

(2) 生徒の実態について

本学級の生徒は、入学して6か月が過ぎ、級友がつくうそや偽りの行動を憎み、真実が何か求めようとする思いが強くなり、その思いが行動として表れてきている。また、新しい知識や技能を身に付けることへの興味・関心や好奇心が高まってきた。しかし、そのような意識があり、自ら学習を積み重ねているものの、定期テスト等で思うような結果が出ず、簡単に努力を諦めてしまう生徒も多い。また、結論や結果を求めることを急ぎすぎて、「これしかない」「これでいいだろう」といった偏った見方をし、別の見方や他人からの意見を受け入れない生徒もいる。

そこで、生徒自身の学習体験を振り返りながら、分らないことを謙虚に受け止めて探究し続け、好奇心をもって意欲的に学び、自己の理想の実現を目指し、自己の人生を切り拓いていこうとする積極的な態度を育てたい。

(3) 教材について

本教材は、群馬県の郷土かるたに登場する田山花袋についての話である。花袋は、文学か、英語か、政治の道かで思い悩んでいた。当時は、社会全体が貧しい状況であったため、花袋は政治家になろうと決心した。しかし、様々な事情から政治家の道を断念し、花袋が一番実現したかった文学の道へ進むことを決心したという内容である。

本教材を通して、諦めない心を持ち、他人の助言を聞き、自己の理想の実現を目指し、自己の人生を切り拓いていこうとする態度を育てたい。

4 指導方針

○本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつために

- ・アンケート「日々の生活の中で、やっても無駄・無理と思ったことがある」の結果から、簡単に努力を諦めてしまう自分についての実態を踏まえさせることで、道徳的な問題を他人事ではなく自分事として考えさせる。

○教材を通して、道徳的価値の追求を行うために

- ・花袋が再上京した時の思いや尾崎紅葉に弟子入りした時の気持ちを考えさせることで、いくつもの挫折や悔しい思いを経験していることに気付かせるようにする。
- ・「蒲団」が認められるまでの花袋の生き方について考えて意見交流したり、全体で比較・検討したりすることで、自己の理想の実現について、多面的・多角的に考えられるようにする。
- ・自分の未来を創るために必要なことについてもう一度考えさせることで、諦めない気持ちや強い意志、助言に耳を傾ける姿勢が必要であることに気付かせるようにする。

○本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返るために

- ・本時で学習したことを今後の生活にどのように生かしたいかを考えさせることで、よりよい生き方への思いや願いを深められるようにする。

○地域の人材や物的な資源の活用

- ・道徳郷土資料集『ぐんまの道徳』を地域教材として用い、群馬の先人である田山花袋の生き方から、理想の実現について考えさせるようにする。

5 本時の展開

(1) ねらい

花袋の生き方について考え、話し合うことを通して、諦めずに理想の実現を目指し、自己の人生を切り拓いていこうとする態度を育てる。

(2) 準備

教師：ワークシート、アンケート結果（拡大）、花袋の写真、花袋の心情グラフ、独歩の写真

(3) 展開（○発問 ◎中心発問 ◇補助発問）

学習活動と発問	時間	予想される生徒の反応	指導上の留意点
1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。 ○アンケート「日々の生活の中で、やっても無駄・無理と思ったことがある」の結果から考えよう。	4分	<ある>→どうしてそう思うのか。 ・今まで、同じようにしてきたけど、上手いかなかったから。 ・自分自身勉強が苦手だから。 ・結果がすぐに出ないから。 <ない>→どうして思わないのか。 ・やっても無駄なことなんてないと思うから。 ・頑張った結果が出たから。	●生徒たちが回答したアンケート結果を提示し、簡単に努力を諦めてしまう自分について考えさせることで、本時で扱う道徳的価値について問題意識をもたせる。
めあて：自分の未来を創るためには、あなたはどうしたらよいのだろう。			
2 教材文の範読を聞く。	6分		●あらかじめ教材文を読ませておくことで、内容理解を簡単に行えるようにする。
3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。 ○花袋はどんな子供時代を過ごしていたのだろう。 ○どうして花袋にとって夢がふくらむ再上京なのだろう。 ○再度挫折した花袋はどんな気持ちでいるだろう。 ○なぜ、花袋は独歩とお互いの作風や生き方について話し合ったのだろう。	11分	・花袋はとても苦労した。 ・花袋は文学の才能があった。 ・自分がやりたいことができると思っていたから。 ・自分の夢を叶えることができると思っていたから。 ・なんで、僕はこんなについていないのだろう。 ・やりたいことをやれないのは本当に悔しい。	●再上京の花袋の気持ちを考えることを通して、花袋が自らの夢を実現させたいという前向きな気持ちをもっていることに気付かせる。
◎「蒲団」が認められるまでの10年間花袋が頑張ることができたのはどうしてだろう。 <個人>考えを明確にする ↓ <ペア>交流する ↓ <全体>比較・検討する	20分	・お互いの考えを聞くことで、何か別のことを学べると思ったから。 ・他の人の生き方を参考にしたいと思ったから。 ・自分の作品づくりに生かしたいと思ったから。 ・仲間たちと好きな文学について語り合うことができたから。 ・本当に自分がやりたいことを見つけたから。 ・作家として生きていこうと決めていたから。 ・やっぱり自分の夢を諦められない。 ・いつかきっと受け入れられると信じて作品を作り続けたい。	●再度挫折し、作家への道を決意した花袋の気持ちを考え共有する。 ●尾崎紅葉に弟子入りした花袋の気持ちを考えさせ、悔しい思いをしていることに気付かせ、共有する。 ●独歩との話し合いを通して、花袋が自分の理想とする文学の形を見つけたことに気付かせる。
◇もし今のあなたなら、花袋のように作品づくりを続けられますか。		・今の私では作品づくりをやめてしまい、文学の道を諦めてしまうと思う。 ・自分なら夢を叶えたいから続ける。 ・得意なことであれば続けられそう。 ・勉強し続ける姿勢が大切だと思う。 ・常に学び続ける姿勢も必要だろう。 ・諦めない気持ちが大切だと思う。 ・ほかの人の意見を聞くことが大切だと思う。	●「自分の作品づくりに口を出されて、それを素直に受け入れられるか」と問い返し、道徳的価値を揺さぶる。 ●周囲の生徒との交流の場を設け、全体で発言しやすい雰囲気をつくる。 ●全体の交流の場面では、他の生徒にも「どう思うか」、「付け加えないか」と問い掛けることで、多面的・多角的に考えられるようにする。 ●独歩と出会ってから10年、作品づくりをやめなかった花袋について考えさせ、諦めない強い気持ちが必要であることに気付かせる。
4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。 ○自分の未来を創るためには、どんなことが必要だろう。	4分		●花袋と生徒たちを重ね合わせる補助発問をし、自分事として考えられるようにする。
5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。 ○これからあなたはどのように生活していきたいですか。	5分	・ほかの人の意見を聞いて自分の生活に生かしていきたい。 ・一生懸命諦めずいろいろなことに挑戦していきたい。 ・自分のやりたいことをやり続けたい。	●自分の未来を創るために必要なことを考えさせることで、諦めない気持ちや強い意志、助言に耳を傾ける姿勢が必要であることを理解させる。 ●4で考えたことを基に、自らの経験やこれまでの自分自身について振り返るよう声掛けする。

(4) 評価の視点

○「蒲団」が認められるまでの花袋の生き方について考え、意見交流したり、比較・検討したりする場面で、自己の理想の実現について、多面的・多角的な見方へと発展しているか。

○本時の振り返りの場面で、自己の理想の実現について自分自身との関わりの中で深めているか。